

私書箱

☎100-91

東京都中央郵便局

私書箱 916

AA日本ニューズレター

No.6

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会

TEL03-590-5377 ☎ 160 東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル 9F

## 九州ラウンドアップ

1987年7月18日(土)～20日(月)

熊本の阿蘇で初めての九州地域ラウンドアップが開催された。直前に台風5号が湿った空気をお土産に九州の西方海上をかすめ、折角「梅雨明け宣言」を出していた気象庁が「戻り梅雨」へUターン宣言2日間水びたしのラウンドアップになった。

昨年11月、鹿児島県のステップ・セミナーに参加した長崎の仲間からの「来年は九州の中間地点でキャンプでもどうか?」という提案が「九州地域ラウンドアップ」という名称に変わるまでに、そう時間を費やさなかった。

九州では珍しい大雪の降った1月14日、長崎・熊本・鹿児島からチェーンを巻きながら阿蘇の会場に初めて仲間が参集した。

ハイヤーパワーの配慮と云うべきか2月9日東京よりJ・S・Oの仲間他数名が来鹿、その足で熊本でのステップ・セミナーに参加して貰い、いろいろのセッションを受け、その夜正式に実行委員会が発足した。

実行委員のほとんどが他のラウンドアップに参加した経験がなく、手探りの状態ながら、AAのスローガン「気楽にいこう」を合言葉にまずは「出発進行」。分らない所はJ・S・Oに問い合わせながら着々準備は進んでいった。

4月26日～28日の関東ラウンドアップに、長崎・鹿児島の実行委員5名が参加し、機会ある度にまた性懲りもなく九州ラウンドアップへの参加の呼びかけ…………。

それを嫌な顔もせず笑って聞いていただいた全国の仲間の皆さんにこの誌面をお借りして厚く感謝致します。

閑話休題、その豪雨の中、多くの仲間、多くの関係者がいろいろの交通機関を用いて会場に馳せ参じて下さった。尾道の仲間は単車で、神奈川の仲間は車の荷台にタタミを敷いて、富山の仲間は一人で飄々と、そして申込を受けていた行政・医療、アラノンの関係者58名は定刻までに全員無事到着された。



ユーモアを交えた関係者4名を含めたセレモニーの1日目を終り、2日間、午前のオープン・ミーティングの進行を努めながら窓の外に視線を移すが、無情にも雨は降り止まず。

実行委員が腕を撫していた屋外のプログラム「阿蘇山頂で青空ミーティング」も「ソフトでミーティング」もお流れ。ガックリしていると古い仲間の一人が「これもハイヤーパワーの配慮さ」とヒト言。なるほど、なるほどとすぐ気が楽になる。不思議なものである。そして感動的なサヨナラミーティング。

とに角、3日間のイベントは終わった。参加者総数152名中関係者58名、九州外メンバー40名であった。

宴のあと、会場内に満ち溢れた参加者全員の一体性を肌に感じながら、ひとまず別れの時がきた。会場の玄関で遠方からの仲間、関係者を見送りながら胸に熱いものがこみ上げてくるのを押える事ができなかった。

AAに繋がって今日まで幾度か「アルコール中毒になって良かった」というスピーチを聞く度に、心のどこかでそれを否定する自分であったが、素直にその言葉を受け入れられる自分になっていた。そして今、その余韻に浸ってばかりもおれない。「止ってはられない」のだ。

また次のステップに向って歩き出さなければならない。仲間の皆さん、関係者の方々本当にありがとうございました。

(実行委員 杉)



第5章)の一部改訳及び追補について  
お知らせ

昭和62年9月6日  
文書委員会

- (第5章)の訳文を綿密に検討してきましたところ、
- (1)一部翻訳見落とし(訳抜け)
  - (2)文法的誤訳
  - (3)医学上の説得性不足
  - (4)語彙の違訳

等により、原文の貴重な表現が、読者にとって不十分な理解もしくは誤解を招く部分についてのみ、改訳する必要を発見しましたので、近く改訳印刷されることに決定されました。

(第5章)

### どうするのか？

徹底的にわれわれのやり方に従った人で回復できなかった人を、われわれはほとんど見たことがない。

回復しない人びとは、この簡単なプログラムに自分を完全にゆだねることができない、またはそうしたくない人びとである。普通、自分自身に対して正直になることが、体質的にできない男女である。世の中には、そのような不幸な人びとがいるのだ。彼らが悪いのではない。そのように生まれついたと思われる。彼らは、厳格な正直さを要求する生き方を把握し、発展させることがもともとできない。こういう人の回復のチャンスは、平均以下である。また、重い感情的、精神的障害のために苦しんでいる人たちもいる。しかし彼らの多くは、自分に正直になる能力が残っていれば回復することができる。

われわれの物語は、われわれがいつもどのようであったか、何が起こったか、今どのようであるかを、大まかに明らかにするものである。もしあなたが、われわれの持っているものを欲しいと思い、それを手に入れるためなら何でもするという気になったら、あなたはすでに確実な行動を起こす準備ができたのである。

われわれは、その歩みのどこかで立ち止まった。もっと易しい、もっと楽な方法が見つかるかも知れないと考えた。しかし見つからなかった。

ほんとうに心から、われわれはあなたに強くすすめる。一番はじめから思い切って徹底するようにと。われわれの中のある者は、自分の古い考えを持ち続けようとしてみたが、それを無条件で放棄するまでは、結果はゼロであった。

忘れないでもらいたいが、われわれはアルコールを論じているのである。巧妙で、不可解で、強力なものである。われわれにとって、それは手伝ってもらわなければもてあますものである。しかしここに、あらゆる力をもつ者が一つある。その一つとは神である。今あなたも神を見いだすだろう。

中途半端は、われわれには何の役にも立たなかった。われわれは、重大な転機、ターニング・ポイントに立っていた。われわれは完全にお任せして、神の保護と

助けをもとめた。

ここにわれわれが踏んで来たステップがある。回復のプログラムとして提示されたステップである。

1. われわれはアルコールに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた。
2. われわれは自分より偉大な力が、われわれを正気に戻してくれると信じるようになった。
3. われわれの意思といのちの方向を変え、自分で理解している神、ハイヤー・パワーの配慮にゆだねる決心をした。
4. 探し求め、恐れることなく、生き方の棚卸表を作った。
5. 神に対し、自分自身に対し、もう一人の人間に対し、自分の誤りの正確な本質を認めた。
6. これらの性格上の欠点をすべて取除くことを神にゆだねる心の準備が、完全にできた。
7. 自分の短所を変えて下さい、と謙虚に神に求めた。
8. われわれが傷つけたすべての人の表を作り、すべての人たちに埋合わせをする気持になった。
9. その人たち、または他の人びとを傷つけない限り、機会あるたびに直接埋合わせをした。
10. 自分の生き方の棚卸を実行し続け、誤った時は直ちに求めた。
11. 自分で理解している神との意識的触れ合いを深めるために、神の意思を知り、それだけを行なっていく力を、祈りと黙想によって求めた。
12. これらのステップを経た結果、靈的に目覚め、この話をアルコール中毒者に伝え、また自分のあらゆることに、この原理を実践するように努力した。

“なんという要求だ！ それをやり通すなんて、わたしにはとてもできない！”とわれわれの多くは叫んだものである。しかし落胆することはない。これらの原理を完全に実行できた、というような人は、われわれの中に一人もいないのだ。われわれは聖人ではない。大事な点は、われわれが靈的な路線に沿って成長したいと願うことである。われわれが掲げた原理は、靈的な完成というよりは、成長のための案内である。

われわれの、アルコール中毒者についての説明、不可知論者のための章、回復の前後にわたるわれわれの個人的体験から、次の三つの考えが明らかになってくる。

- (a) われわれはアルコール中毒者であり、生きていくことがどうにもならなくなったこと。
- (b) 恐らく如何なる人間的力も、われわれのアルコール中毒に救いをもたらすことはできないこと。
- (c) 神にはそれができ、求められればそうして下さるということ。

Alcoholics Anonymous

第五章 117 ~ 121 頁から



## 秋のフォーラムに 参加しよう！

11月22・23日 東京・日本青年館で

北から南まで、日本全国各地域で、ビッグな集りや、オフィス設立の動きが、日本AAの一人ひとりの知恵と経験を結びあってAA活動を進めていこうという、全国サービス体系化の機運を力強く盛り上げてきました。

各地域で開かれる大きな集りには、有機的に結合された交通機関を巧みに使って、たくさんの地域の仲間達が参加しています。青森から熊本まで高速道路が一本でつながったように、日本アルコールクス・アノニマスの各地域は広く深い水路で結ばれていることが必要です。

スピーチも分科会も、参加者全員のシェアリングもあります。この集りは、今年春の半日のフォーラムに続いて、本格的なフォーラム活動の先がけとなるものです。

「サービス」とは、アルコールクス・アノニマスの唯一の目的である、「まだ苦しんでいるアルコール中毒者にメッセージを運ぶこと」をやりやすくする、文書活動、オフィス活動、財務活動、行政や医療機関、市民グループや他の集りとの協力関係、そして皆さんの委員会活動のことを云うものです。

サービスに関心のある全国の仲間たちに、明日のAAを光あるものにするために、秋たけなわの東京神宮の森に集うことを呼び掛けます。

第2回フォーラム実行委員会

### 委員会報告

#### 病院施設委員会

AAの方法による回復と「12の伝統」による各グループの一致をもとに、病院・施設・行政の専門家の方々とどのように協力関係を持ち、まだ苦しんでいるアルコール中毒者にAAのメッセージを伝えていくために何をしていくか。また、各グループ及びメンバーのメッセージ活動を助け、より効果的にするにはどのような活動をしていけばよいか。このような多くの課題を持って17名の委員でスタートした。

委員会活動が始められ、各委員から提案が出され、メッセージ一覧表を見直し、メッセージ記録表を作成。また各グループのメッセージの情報交換の場としてメッセージ窓口集会を開き、メッセージの大切さを訴えていくことにし、早々に準備が始められた。

3月に「第一回メッセージ委員及び病院メッセージ窓口集会」を開き、多くの経験を分かち合う事ができ、今後の活動に大いにプラスになった。その後回を重ね、現在、五回目の準備が進められている。メッセージ

一覧表及びメッセージ記録表については、用紙を作成し、各グループに記録を依頼し、当委員会で集計作業をしてあり、今後の活動に役立つものとしていきたい。

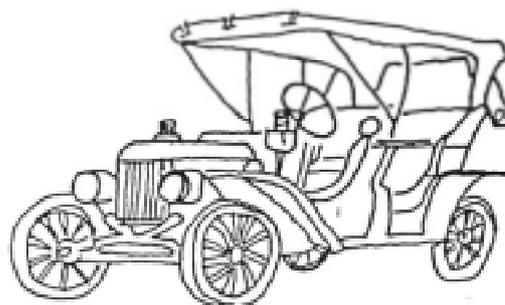
またAA活動を進めていく中で、地方からのメッセージ依頼についてどのように対処し、どのように進めていくか、いろいろと話し合いがなされ、当委員会が窓口となりメンバーに協力を呼びかけ、メッセージを進めていくことにした。現在当委員会を窓口として、郡山の星が岡病院（第三日曜日）、会津若松の羽金病院（第四日曜日）、新潟の河渡病院（第一日曜日）、いわきの四倉病院・舞子浜病院（第三日曜日）、以上五ヶ所の病院にメッセージを運び続けている。

メッセージ活動を続けていく中で多くの問題はあるが、メンバー個人の献身的な協力により、メッセージだけでなく専門家とのミーティングや院内クローズド・ミーティング、オープン・スピーカー・ミーティング、等ながが続けられている。現在は専門家の協力により、各地域にAAグループの発足をみるようになってきた。だが、新しいグループのメンバーはソーバーの期間も短かく、経験も少ないためにいろいろトラブルも多く、グループの運営にも、12のステップや12の伝統の理解にも苦慮しているようである。

今後は病院へのメッセージだけでなく、新しく発足したグループの活動を助けるためにも、行政や医療の専門家に対して積極的に呼びかけ、AA活動をより理解して戴けるようにしていかなければならない。そのためにも、各委員会の協力と各グループ及びメンバーの協力のもとに、委員会活動を続けていきたい。

また、当委員会の活動に協力して下さったAAメンバー、専門家の方々にも心より感謝の意を表したい。

地方の病院へのメッセージに参加して下さったメンバーの個人の責任で支出された金額は交通費だけで、年間約400万円以上になると思われる。



南阿蘇国民体育館本館



## 8 7 関東秋季 ラウンド・アップ開催 のお知らせ

さわやかな秋風のそよぐ季節となりました。

秋の越生ラウンド・アップも、いよいよ締め切り間近になりました。多くの方々のお申し込みをお待ちしております。

### テーマ：一緒にやろう！

- <開催> 昭和 62 年 10 月 18 日～20 日  
<会場> 埼玉厚生年金休暇センター  
[埼玉県入間郡越生町古池 700 番地]  
東武東上線坂戸乗換・越生線、または JR 八高線「越生駅」下車バス 10 分  
<参加費> 3,000 円(宿泊費は別です)  
\*参加費には借り受ける各会場の使用料、コーヒー代、消耗品代、雑費等も含まれています。  
<宿泊費> 一泊(2食付き) 6,350 円  
二泊(4食付き) 12,700 円  
、 \*昼食は御希望により 650 円で別途受け付けます。  
<申込み> 各担当グループまたは J S O まで  
<申込締切> 昭和 62 年 10 月 2 日(金)  
\*尚宿泊人員は 250 名になり次第、締め切らせていただきます。  
\* 10 月 8 日以降の取り消しにつきましては、参加費、宿泊費、昼食代等の返金はありませんのでご了承下さい。  
19 日には数々のレクリエーションを予定しております。尚、ただいまラッフルの献品を各グループ、J S O にて受け付けております。御協力下さい。  
《詳しくは J S O までお問い合わせ下さい》  
8 7 関東秋季ラウンド・アップ  
実行委員会

### ♣ ぐるーぶ便り ♣

#### 仙台グループ

杜の都仙台に今異変がおきている。寝た子をおこし、たような政宗ブームの到来。最新の乗心地を装備した地下鉄大動脈の開業、そして 200 万人もの人を集める「仙台七夕」、さらには夢のような「未来の東北博」。今やわれもわれもと民族は仙台に大移動している。

そんな浮世の中で、仙台、東・西・南・北・中とミーティング場を持つ仙台グループは、仙台独自の伝統を守り「これが仙台グループだ」、の不思議な「一致」を保ち、今日一日飲まないで生きる事の喜びを感じるミーティング三昧である。

「3 日来ないと殺される」、「さっさと飲んで楽になれ!」。初めてのメンバーが聞いたら恐ろしくなるような言葉が、さらりとミーティング場をかけぬける。

天を仰いで笑う仲間、狂気に満ちてにらみつける仲間、「俺の事じゃない」としらを切る仲間、茶わん洗いなど一回もした事がないという仲間、みんなが帰った後静かに掃除をしている仲間等々、大所帯になった今、熱気、殺気ムンムンである。なんとメチャクチャなグループではあるが、それでも仲間は仲間。いつしか一緒に笑っている。共に行動する事に喜びを感じ、生かされている事に感謝を想う。そんな一人ひとりの気持がグループの一体性につながっている。

年間を通して多彩なイベントに行ずる。又、海、山に恵まれている事もあってよく出かける。必ずと言ってよい程、事前に申込んで来る仲間は少ない。当日いきなり、しかも当然のような顔をして参加する仲間のなんと係り泣かせなこと。あきれかえるよりおかしくなる。そしてそんな仲間が実はグループの栄養剤なのである。

5 年前の誕生当時を知る由もないが、時の流れと共に、あるいは成長、あるいは足ぶみをくり返しながらかも、メンバー一人ひとりに気づかぬうちに染みついて仙台グループの伝統が更にグループを引張って行く。90 分のミーティングが非常に短くなった。それほどメンバーがふくれあがった。避けて通れない課題である。

事務所も、のどから手が出るほど欲しい。運営委員やミーティングチェアマンも不足している。欲を言えばきりが無い。しかしミーティング場は毎日開かれる。大勢のメンバーがやって来る。昨日の顔が今日もある。そして笑いがある。

広い仙台に分布するミーティング場に、福島・盛岡・相馬・石巻・蔵王の仲間がごく自然に顔を出す。それもしばしば。遠来の仲間に出会える事もしかりである。

イベントの度に仙台に来てくれる仲間、そしてそれを喜ぶ仙台のメンバー……。

今日もそれぞれが勝手な事を言いやって来る。仲間を求め、正直を求め、自分自身に気づこうと。ミーティング場に花を飾ってくれる女性メンバーもいつしか増えてきた。

政宗さんも喜んでいるだろう。

釈

